

## 1. はじめに

不二聖心女子学院中学校・高等学校は静岡県裾野市にある私立中高一貫のカトリックの女子校である。1学年2クラスの小規模な学校で、生徒は20都道府県から集まり、約半数が寄宿舎生活を送っている。本学院は69 haの広大なキャンパスを有し、茶畑や草地、竹林、雑木林、スギ・ヒノキの人工林など、様々な環境が見られ、多様な動植物が生息している。

## 2. 不二聖心女子学院と不二農園の歴史

本学院に見られる茶園は、キャンパスと一体をなす不二農園の方々によって管理されている。不二農園の歴史は、明治初期、官有地の払い下げを受けた貫禄士族がこの地を開墾し、茶を捲いたことから始まった。1920年、岩下清周により農園で働く人々の子どもたちや地域の子どもたちのために、本学院の前身となる温情舎小学校が設立された。1952年には聖心会に経営が引き継がれ、現在の不二聖心女子学院に至る。

## 3. 不二聖心女子学院の茶草場と茶草場農法

本学院に見られるススキを主体とした草地は、茶草場と呼ばれている。茶草場の草は毎年秋から冬にかけてきれいに刈り取られる。そして刈り取った草は茶畑の畝間に敷き込まれる。この作業によって、土壌の状態が良くなり、ひいては茶の品質が良くなるといわれている。この栽培方法は茶草場農法と呼ばれ、静岡県で古くから行われている伝統農法である。不二農園では、100年以上前から、茶草場農法により茶栽培が行われてきた。現在、茶園3.3 haに対し、その28%にあたる0.93 haの茶草場がある。紅茶用品種タダニシキは、ほぼ本学院のみに現存する貴重な品種で、幻の紅茶と呼ばれている。

## 4. 本学院の茶草場に見られる特徴的な動植物

茶草場にはフデリンドウ、ヤマサギソウ、アイナエ、コオニユリ、オカトラノオ、ワレモコウ、ナンバンギセル、ヒキヨモギなどの草地性植物をはじめ、クヌギ林と接する境界にはキンラン、ギンランなど絶滅が危惧される貴重な植物が見られる。一方で、セイタカアワダチソウ、アメリカネナシカズラなどの帰化植物も見られ、今後の植物相の変化を注意深く観察していく必要がある。また、カヤキリ、ショウリョウバッタモドキ、マツムシ、クツワムシなどの全国的に個体数の減少が著しい昆虫も確認されている。

## 5. 茶草場を活用した教育活動

本学院では茶草場とそこに見られる生物多様性を活用した種々の活動を行ってきた。

夏休みには生徒と教員が案内役となり、小学生を招いて「夏休み子供自然体験教室」を行っている。茶草場を中心としたキャンパス内の動植物の観察を行った後、茶草場農法によってつくられた茶の試飲をする。人々がおいしいお茶をつくろうとして行ってきた努力が、結果として、茶草場の生物多様性を守っているという点に気づくことがねらいである。

学院ホームページでは、ブログ系コンテンツの「フィールド日記」で、キャンパス内に見られる動植物を短い文章と写真で紹介している。

## 6. おわりに

本学院の豊かな生物多様性は、先人たちの知恵と努力によって、保たれてきた。私たち自身が、キリスト教の価値観のもと、本学院の豊かな自然環境の中で学ぶ者として、自分の言葉で茶草場のもつ価値を語り、次世代に守り伝えていきたい。